

**テーマ：子どもの自尊感情や主体的に行動できる
気持ちを育む環境づくり**

第1班

現在八尾市の状況ってどんなの？また、どんな課題がある？

<現状>

<課題>

- 子どもの気持ちより親の気持ちを優先させる
 - ・保護者の子どもへの理想が大きく、子どもの性格が出せない
 - ・子どもの意見より、親の意見を通そうとする
 - ・子どもの意見を聞かず、親が主体的になって行動している
 - ・夜間に働く親が多く、子どもの話を聞くことができない
 - ・時間やお金の問題から、子どものやりたいことを親が否定する
 - ・育児より仕事を優先させる
 - ・親同士の関係が、子どもにまで影響を与えている
- 子どもの意見を尊重しすぎる
- 河内首領の「子ども音頭取り」が、地域各地のやぐらで成果を発表して活躍している
- 就学前の子どもが安全に遊べる公園や施設が少ない
 - ・アリオに行き遊び。関係ない子どもが万引きに巻き込まれた。
 - ・習い事に行く子どもが多い
- 様々な施設が増え、自然の中で遊ぶ機会が減っている

- 環境づくり
 - ・やってみようという気持ちが出せる場作り
 - ・子どもの自由な選択や行動を引き出す
- 親の教育
 - ・子どもの気持ちを出しやすい親子の接し方や見守りのアドバイス
- 見守り
 - ・子どもが多く集まる場所で、万引きなどの犯罪に巻き込まれないよう見守る

**上記の問題や課題を解決するためにできることは？
また、よいところをさらにのばしていくためには？**

自分でできること

地域としてできること

- 子どもの見本となる
 - ・ごみを捨てない、自転車の正しい乗り方などのマナーを示す
 - ・良い行動を取る
- 子どもへの声掛け
 - ・子どもにほめる言葉のシャワーをたくさんかける
 - ・子どもができていないことは、どんな小さなことでも声掛けする
 - ・プラスの言葉で声掛ける
 - ・自分の子どもが褒められることが親も嬉しい

- 子どもが主役になれる仕掛けづくり
 - ・子ども教室で、子どもにあいさつなどの先導の役割をしてみよう
- 地域で見守り、子育てする
 - ・八尾市の歴史を学ぶ
 - ・郷土カルタ、楽器とふれあう機会をつくる
- 生活の基本を大人が教える
 - ・自転車の正しい乗り方やマナーを繰り返し訴えて子どもの安全を守る
 - ・ごみやふんが多い公園は地域で掃除する

市などに支援してほしいこと

- 話の場、機会をつくる
 - ・親が孤立しないよう意見交換できる場をつくる
- 子どもが主人公の場をつくる
 - ・河内首領の「子ども音頭取り」の活躍の場をつくる
- 窓口や情報提供の整備（見えるPR）
 - ・どこに行っても様々な窓口につながる、誰でも行きやすい大きな窓口を1つ作る
 - ・受け手から見て役立つ情報の出し方を考える
- 子どもの遊び場の整備
 - ・児童館などを幅広い地域に作る
 - ・小規模な公園が多いため、もっと広く自然豊かな公園を作る

**テーマ：子どもの発達や学びの連続性を踏まえた
繋がりづくりや「子育て力」の強化**

第2班

現在八尾市の状況ってどんなの？また、どんな課題がある？

<現状>

<課題>

- 社会とつながれない母親が多い
 - ・子育てを否定されたくない（自信がない）母親はつながりたくないと思ひ、閉じこもってしまう
 - ・相談したいと思ってもハードルが高い
 - ・相談に来ないことで、埋もれてしまっている
 - ・どこに相談に行けばよいか分からない
- 子育てに関する知識不足
 - ・市の離乳食講習会などに参加しない人が多い
 - ・出産後からの子育てを学ぶ機会がない
 - ・子どもにとって正しい知識による子育てができていない
 - ・初めての子育ての仕方が分からない（離乳食の作り方、発達過程など）
 - ・4か月から1歳半まで長いので問題が起きやすい
- 保幼小中の連携ができていない
 - ・連携ができていない、申し送りが統一されていない

- 安心して相談、共感してもらえる場
 - ・外に出ない、ひろばに来ない母親のつながりづくり
 - ・元気な高齢者とのつながり（グループになるとつながりやすい）
 - ・こころには赤ちゃん訪問を行う人にひろばに参加してもらう
- 母親の子育て力の底上げ
 - ・母親同士の仲間づくり
 - ・子育てパートナーからの情報提供
 - ・10か月健診を実施して早期発見
- 保幼小中の連携による支援の継続性
 - ・保幼小中までの申し送りの統一
 - ・支援が必要な子どもの申し送りの統一

**上記の問題や課題を解決するためにできることは？
また、よいところをさらにのばしていくためには？**

自分でできること

地域としてできること

- 具体的な子育て方法を教える
 - ・発達過程を具体的に知る機会をつくる
 - ・「分からないことがあったらスプーン教室に行ってみよう」など、自分が知っていることを伝える
 - ・まず自分が情報を得て、それを伝える
 - ・子どもとの具体的な関わり方を教える
- 母親への声掛け
 - ・母親にプラスの言葉掛けをして勇気づける
 - ・母親のことを認めてあげる。特にどこがよかったか言ってほめる

- 地域とのつながり
 - ・「通報」ではなく、普段の声掛けを行う
 - ・近所づきあいを大切に、回りにつながる
 - ・地域の農園と近隣の保育所との交流をつくる
 - ・地域の幼稚園や保育所とつどいの広場のつながり
 - ・保育所の支援センターと高齢者とのつながり
 - ・「はとぼっぼ」とひろばのつながり
- 専門家とのつながり
 - ・4か月健診で引っ掛かり不安に思っている母親に、その後（1歳半時点など）、保育士と保健師が訪問する
 - ・ひろばで気になる子どもを保育士や保健師につなげる
 - ・施設同士でつながり、母親に正しい情報を伝える

市などに支援してほしいこと

- 相談窓口の強化
 - ・相談窓口の明確化
 - ・子育てマップの内容を把握して、説明できるようになってほしい
- 専門家同士のつながり
 - ・子育て支援を行っている人（子育てパートナーなど）同士のつながりづくり
 - ・保健センターの保健師とひろばのスタッフで、心配な母親の情報を共有する
- 教室の開催
 - ・母親と父親を対象とする、コモンセンスや子育てに関する様々な方法を教える教室（コモンセンス・ペアレンティング：母親向けの子どものしつけ教室。スキル練習に重点を置き、子どもができていないところに注目して強化させる手法を教える）

テーマ：子どもの遊び場や安心・安全に過ごせる場所

第3班

現在八尾市の状況ってどんなの？また、どんな課題がある？

<現状>

- 家
 - ・自分の家、友達の家、親戚の家
- 公共施設
 - ・青少年会館、放課後児童室、つどいの広場などの市の施設、学校内は比較的安心
 - ・つどいの広場は保護者同士のつながりにもなっている
- 公共の場や公園
 - ・小中学生がボール遊びできる公園が少ない
 - ・体を使って遊ぶことが少ない
 - ・トイレがない公園が多い
 - ・道路から死角になるところがある公園もある
 - ・子どもを連れて遊びに行くとき必ず苦情電話が入る公園がある
 - ・子どもだけで過ごせる安全、安心の場が少ない
 - ・夏場、冬場に遊べる場所が少ない
- ゲームセンター、大型ショッピングセンター
 - ・ゲームで遊ぶことが、安全だと思っている
 - ・大型ショッピングセンターはいろいろな人が集まる為、危険もある
- 自然
 - ・田んぼや川などの自然は、子どもにとって楽しい遊び場だが、反面危険もある
- 情報
 - ・情報が多すぎて、何が正しいかわからない

<課題>

- 安全
 - ・大人からみる安心と、子どもからみる安心にはずれがある
 - ・家庭内で子どもがどのように過ごしているか把握すること
 - ・放課後児童室は安全に過ごせる場所なのか？
 - ・小さい子どもが安全に遊べる場所
 - ・乳児を連れて「いつでも」行ける遊び場
 - ・ゲーム以上に夢中になれるもの
 - ・保育所、幼稚園などでの子どもの様子が十分に知らされているか
- 公共の場での遊び方
 - ・様々な年齢や遊びの中での安全な遊び方
- 八尾市の子ども会は小学生限定な部分がある

上記の問題や課題を解決するためにできることは？
また、よいところをさらにのばしていくためには？

自分でできること

- 人と人とのつながりで安心、安全確保
 - ・あいさつ、声を掛け合うなど保護者同士のコミュニケーションを充実することで、子ども同士のコミュニケーションにもつなげる
 - ・ゲーム以上に夢中になれる場所や遊びの提供
 - ・新しい取り組みを保護者に伝える
 - ・保護者同士がつながれる場をつくる

地域としてできること

- 子ども会
 - ・親が引っ張るのではなく、乳幼児から高校、社会人までの縦のつながりが反映されるような組織にする
- 地域とのつながり
 - ・家庭から抜け出せない親をどのように引き出すしくみづくり

市などに支援してほしいこと

- 情報提供
 - ・市から、正しい情報をしっかり伝えてほしい
 - ・家庭で子育てしている親への情報提供
- 交流の場
 - ・乳幼児も行きやすい場をつくる
 - ・子育て仲間とつながれる場、年齢に合った場、0～18歳までの縦の場（青少年会館など）をつくる

テーマ：子どもや子育てに関する相談や情報提供

第4班

現在八尾市の状況ってどんなの？また、どんな課題がある？

<現状>

- 子どもの預け先
 - ・0～3歳児の母親は保育所に預けられるかどうか不安
 - ・自分が社会復帰したときに、一時預かりや病児保育が利用できるか不安
 - ・第2子以降の出産時に、上の子を預けられるか不安
 - ・母子家庭で家から出たいが、保育所や仕事のことが不安
- 健診
 - ・4か月健診前後の母親の不安が大きい(健診前:何か言われたらどうしよう 健診後:指摘されたことで落ち込む)
 - ・全部親の責任と、上から目線で言われて母親が不安になる
- 広場
 - ・こんにちは赤ちゃん訪問後の生後1～2か月の母親や、健診時に保健師から紹介されて来る母親の相談が溢れ、スタッフはかかりきりで対応している(広場は、低年齢児の気軽な相談の場として大きな役割を果たしている)
 - ・主任児童委員がつどいの広場のことを知らない
- 保育所
 - ・園庭開放時に相談できるが、日時が限られるため広場のほうが相談に行きやすい
- 子どもに関する不安、悩み
 - ・言葉の発達が遅い、寝ない、食べない、しつけ方など
 - ・保育園の登園時間がバラバラで休みがち(1歳児)
 - ・送迎時間がかかる 職場が変わる 仕事がないときは休ませる

<課題>

- 子どもの預け先
 - ・病児保育、一時預かり、第2子以降の出産時の上の子どもの預け先
 - ・幼稚園や保育園の選び方
- 健診
 - ・1歳半から3歳半健診まで長すぎる
 - ・健診時の不安と傷つき
- 親同士の関わり方(公園など)
- 小学生以降の相談場所、相談相手
- 外国人への日々の情報提供

上記の問題や課題を解決するためにできることは？
また、よいところをさらにのばしていくためには？

自分でできること

- 情報提供
 - ・市役所の担当課を紹介する
 - ・若い母親は子育てで悩んでいても、広場に一度来ただけで続かないため、電話連絡をする。来た時に「お便りいますか？」などと配布する
- 関わりをもつ
 - ・民生委員に、親子を連れてつどいの広場に見学に来てもらう

地域としてできること

- 保育所体験
- 市政だよりに活動内容を掲載する

市などに支援してほしいこと

- 使いやすいシステム
 - ・情報はあっても、使い方がわからない(第2子以降出産の預け先、病児保育に事前に登録が必要なことを知らなかったなど)ため、分かりやすい情報提供をしてほしい
 - ・幼稚園での相談業務の実施(広場で、赤ちゃん返りの問題など、幼稚園児の相談にも対応している)
 - ・広場の数を増やしてほしい
- 育児を行うすべての人に対する援助
 - ・保護者が実際に考えていることを聞いてほしい。広場で行ったアンケートを深く考えてほしい
 - ・アンケートの結果で、「子育ては辛いが楽しいと感じることが多い」となっているが、支援の状況の中で「特に変わらない」となっているのがおかしい。「辛い」と感じている人の声をもって拾ってほしい。
 - ・保育料が高い。特に0～2歳児で、もっと補助がほしい
 - ・健診の最後にねぎらいの言葉があれば、母親は救われる。

**テーマ：妊娠・出産時から、子どもの成長に応じた
切れ目のない支援**

第5班

現在八尾市の状況ってどんなの？また、どんな課題がある？

＜現状＞

- 出産直後のストレス**
 - ・出産後すぐの新生児の時期は、母親が外に出られず、ストレスをもちやすい
 - ・出産ブルーを、上の子どもに対してはけ口とする（口調など）
 - ・初めての出産で、自分の体の変化に不安をもっても、気軽に相談できる場所を知らない人もある
- 問題意識の不足**
 - ・母親が自分の体のしくみについて（避妊など）考えていない状態がある
 - ・子どもの体の変化を見逃す母親、父親が多い
- 子どもへの対応**
 - ・体に関する子どもからの疑問や問い掛けをはぐらかしてしまう（大人になれば分かるなど）、聞く耳をもたず、ブラックなこととして言うことを禁止してしまう
 - ・1～2歳の上の子どもに、すぐに「お兄（姉）さんだから」と責任を持たせ過ぎることを言ってしまう
 - ・妊娠時に、母親の体の変化を上の子どもに教えたと、子どもは受け入れる態勢ができる
- 妊娠から出産、子どもの成長過程で、支援にツブツと切れ目がある**
- 保育所の支援教室**
 - ・保育所利用者には、支援教室などで妊娠、出産の相談に乗ったり、見守りができる。親同士の意見交換もできる

＜課題＞

- 支援の機会づくり**
 - ・健診に来れない人、外出機会がない人をフォローするしくみが必要
- 個人情報の共有**
 - ・支援には共通理解が必要だが、個人情報なので共有が難しい
- 親が学べる場（性教育）**

**上記の問題や課題を解決するためにできることは？
また、よいところをさらにのばしていくためには？**

自分でできること

- 情報提供**
 - ・子育て支援教室の中で、子どもへの関わりについてアドバイスをを行う

地域としてできること

- 地域の身近な子育て力**
 - ・子育てで悩んでいる人が、気軽に相談できる場をつくる
 - ・子ども同士の仲間の力、親同士のつながりをつくる
 - ・初めての場所でも踏み出せる、親が安心できる環境づくり
 - ・公園やプレイパークに、遊びを教えてくれる指導員を置く

市などに支援してほしいこと

- 予約なしで利用できる場所**
 - ・市内を区画割りして、妊婦さんがつながりをもてる専門家を配置する
- ネットワーク支援**
 - ・子育て困難家庭などをネットワークで支援する
 - ・妊娠から18歳くらいまで、子ども一人一人の「成長台帳」を作り、関わる人が共通認識をもって支援する
 - ・一時保育などの子育て支援の場に、中高生にもボランティアで参加してもらい、学生の教育にもつなげる
- 情報提供**
 - ・保育所や子育て支援の場を、もっとオープンに情報提供する（アリオなど多くの人が集まる場所に子育てマップを置くなど）
- 親が学べる場**
 - ・親が、体のことを学べ、子どもへの教え方を学べる場をつくる
 - ・マタニティの人が集まれる場所、講習会などをつくる

テーマ：子どもとともに親も育つ「子育て力」の強化

第1班

現在八尾市の状況ってどんなの？また、どんな課題がある？

<現状>

- 子どもとふれあう機会が少ないため、親も育たない
- 保育園に通わせている親は、子どもとふれあう時間が少ない
- 子ども会に入らない家庭が増えている
- 子どもだけの行事には多く参加するが、親と一緒にの行事は参加者が少ない
- 子どもの安全な遊び場が少ない
- 休日に子どもと遊びたいが、安心して遊べる場所が少ない
- 子どもがのびのび遊べる場所が少ない
- 子ども同士で遊ばない
- 地域との関わりが薄い
- 地域の行事の参加者がいつも同じメンバーである
- 近所や地域との関わりが少ない
- 様々な取組はあるが、全体を巻き込めていない
- 保育園の母親たちは、他の親との交流がとりにくい
- 個人情報保護で同じ幼稚園や学校の保護者の連絡先が分からないため、自宅のみで子育てを行うことになる
- 父親とのふれあいが少ないため、今年は久々に玉串川で魚釣り大会を行った
- 子どもの居場所が少ない
- 地域に幼稚園と保育所が少なく、ニーズに合っていない
- 学童保育が満杯で、高学年が入れない

<課題>

- 地域活動を通して「親子で育つ」環境を作る
- 地域の活動を増やす
- 子ども会の復活
- 地域行事に参加しやすい環境を作る
- 家庭や地域で、交通ルールや道徳的なルールを教える
- 親を育てる
- 子どもは、子ども社会（幼稚園や学校）の中で勝手に育つ
- 子どもの育ちや能力を生かすのは親の気持ち次第
- 親が育たなければ、子どもの成長に気づくことができない
- 子どもの居場所の充実
- 保育所、幼稚園の充実
- 共働き家庭のための学童保育時間の延長
- 子どもが安全に遊べる場所として小学校を活用する

上記の問題や課題を解決するためにできることは？
また、よいところをさらにのばしていくためには？

自分でできること

地域としてできること

- 地域にもっと関わる
- 近所や地域のことに関心をもつ、行事に参加する
- 住みよいまちづくりのために、一人一人が奉仕の精神をもつ
- 若い世代から年長者まで参加する地域行事の中心に関わることで親が育つ。親が育つ姿を子どもにみせることで子どもを育てる
- 町会、子ども会への入会
- 町会に入る
- 町会や子ども会に入るよう勧める
- 声掛けをする
- 子どもに声掛ける（あいさつなど）
- 近所の人に行事参加への声掛けをする

- 小学校の活用
- 小学校をもっと地域の中心にする
- 地域と学校との関係を密接にする
- 情報提供
- 地域の役の人が、様々な人と関わることで自分たちで情報収集する
- 情報を隅々まで行き渡らせるために、町会の人に様々な話題を情報提供する

市などに支援してほしいこと

- 子どもの居場所の充実
- 公立保育所、幼稚園の存続
- 放課後に子どもが学年を超えて遊べる場の提供
- 公園を増やす
- 施設の活用
- 保育園や小学校で15時から18時までを利用して学習スクールを取り入れる
- 小学校の空き教室を老人クラブやサロンに利用して交流を図る
- 地域への働きかけ
- 興味や関心のもてる情報の提供
- 町会入会への積極的な働きかけ

テーマ：子どもの成長に応じた
切れ目のない支援を行うには？

第2班

現在八尾市の状況ってどんなの？また、どんな課題がある？

<現状>

- 年齢が上がるほど支援の機会が減る（子育て支援とは何歳までなのか？）
- 小さい子どもの支援は充実してきているが、小学生からの支援が少ない
- 年齢が上がるほど相談できる場が減る（ちょっとしたことを聞きたいときにどこに行けばよいか分からない）
- 小学生でも遊べる広場がほしい（元気な大きな子どもがボール遊びなどができる場所）
- 子どもが集まれる広い場所が少ない
- インフルエンザなど学級閉鎖時に、元気な子どもが集まれる場所が少ない（学級閉鎖の期間が長いので、近隣の公園にも頼みにくい）
- 子どもが遊べる広い場所が少ない
- 曙川中学校区に広場がない
- 発達との相談をする場所がない
- 3歳半で健診が終わる
- 成長ブックがあまり使われていない
- 保育の場の不足
- 待機児童がある
- 病気になったときに預ける場所が少ない
- 地域とのつながりが不透明
- 小さい子どもをもつ母親と敬老世代の交流の場が少ない
- 学校にクーラーがほしい
- 勉強や給食に影響するため、クーラーがほしい

<課題>

- 年齢に応じた相談の場
- 保育の充実
- 待機児童の解消
- 時間外保育の充実
- 母親や子どもが病気になった時にお手伝いを利用したい
- 子どもが集まれる広場
- 毎日開いている常設の広場
- 地域との関わり
- 就園前の地域交流
- 地域と園や学校との密接な関わり
- 親世代と敬老世代とのサロンの場

上記の問題や課題を解決するためにできることは？
また、よいところをさらにのばしていくためには？

自分でできること

地域としてできること

- 助け合う
- 助け合いの気持ちをもって近隣の人を見守る
- 「HELP」を言う
- 大変な人は、自分から助けを求めることも必要

- 地域とのつながりづくり
- 高齢者パワーの活用
- 病気の時のファミリーサポートセンターの活用
- PTAが団結して、学校へのクーラー設置を要望する

市などに支援してほしいこと

- 全中学校区に1つずつ常設の子育てひろばの設置
- 小学生になっても本を読んだり、憩いの場に行けるような場所
- 小さい子どもと共に過ごすことで、小学生の学びの場にもなる
- 小学校以上の子どもが集え、親も相談できる場所
- スクールカウンセラー
- 小学校にもスクールカウンセラーを設置する
- 学校へのクーラーの設置

テーマ： 子どもの居場所

第3班

現在八尾市の状況ってどんなの？また、どんな課題がある？

<現状>

- 公園
 - ・自宅近くに公園はあるが小さい
 - ・自宅近くに大きい公園はあるが、ボール遊びができない
 - ・公園にトイレがない
 - ・公園のトイレが汚い
 - ・見通しが悪く危険な公園があり、安全面が心配
- 家
 - ・自宅でほとんど過ごしている
 - ・友達の家の前でゲームをする
- 学校・学童
 - ・休日に子どもが学校のグラウンドを使えないことがあるが情報がない
 - ・学童で大人が子どもの問題を解決してくれない
 - ・子どもが学童に行きたがらない ・他市に比べて学童の料金が高い
- 居場所がない
 - ・放課後の居場所がなく、何をしているのか分からない
 - ・大きな子どもがかたまって座っている
 - ・異年齢の子どもがかたまっていると怖い

<課題>

- 子どもが多く集まれる公園
 - ・安全な広い場所
 - ・裸足で歩ける砂場
 - ・異年齢でも集える
 - ・ボール遊びができる
 - ・トイレの設置
- 学童保育の充実
 - ・年間契約だけでなく、今日や明日など臨機応変に不定期でも預かってくれる学童保育
- グラウンドの情報提供
 - ・グラウンドの使用状況の情報提供が必要

テーマ： 子育てに関する情報提供

第4班

現在八尾市の状況ってどんなの？また、どんな課題がある？

<現状>

- 市政日より
 - ・市のホームページ
 - ・ホームページの階層が深過ぎる
- 役所
 - ・市役所や出張所で相談する ・出張所が少ない ・市役所に行くのは勇気がいる
- 町会の掲示板
- 口コミ
 - ・友達に教えてもらう ・人から聞くのがもっとも簡単で分かりやすい
 - ・保育所の先生からの口コミ情報が役立った
- 情報が得にくい
 - ・住んでいる地域の子育て情報が分からない(回覧板や掲示板はなかなか見れない)
 - ・情報提供が遅い(情報を知ったときにはその子育て期間を過ぎていた)
 - ・中高生に関する情報が少ない ・私立幼稚園に情報がこない
 - ・近所に子どもが少ないため子育て情報が入らず、孫の預かり時に困っている
 - ・その年代になったら受けられるものを情報提供してほしいが、自分で調べないといけなものが多い。莫大な情報の中から、知りたいことを探すのが難しい、面倒
 - ・どの情報が正しいのかが分からない(勝手に決められて進められている気がする)
 - ・ウィズなど定期的な教室の情報はあるが、当たらず利用できない

<課題>

- 年齢に応じたタイムリーな情報提供
- 大事なことは決定する前に市民に情報提供が必要
- あらゆる手段を利用した情報提供
 - ・直接つながっているとこから情報を下ろしてほしい

上記の問題や課題を解決するためにできることは？
また、よいところをさらにのばしていくためには？

自分でできること

- 安全な居場所に出かける
 - ・友達同士で声をかけて少し遠い公園に出かける
 - ・八尾市の施設を利用する(ウィングの部屋を借りるなど)
- 情報収集する
 - ・保育所や学童保育で地域のことについて情報収集して、提供する
 - ・役員を自ら進んで受け、自分の成長につなげる
 - ・地域の行事に参加する
 - ・ママ友を作る

地域としてできること

- 公園の環境整備
 - ・近所の公園でビンやカンなどのごみを見かけたら掃除する
 - ・中高生のたまり場になりやすい公園に、警備員を配置する
 - ・公園で人目につきにくい場所について市に要望を出す
- 行事の開催
 - ・町会が、子どもから高齢者まで参加できる行事を行う
 - ・地域の人に活動を周知できるよう、情報発信を工夫する
- 学校のグラウンドの使用状況の共有
 - ・学校のグラウンドを子どもが使えるときと使えないときを掲示物などで分かるようにする

市などに支援してほしいこと

- 公園の環境整備
 - ・ボール遊びができる公園の整備
 - ・公園内の死角に防犯カメラを設置
 - ・水洗トイレの設置
 - ・乳児から高齢者まで安全に利用できるよう、曜日によって使用できる年代を替える
- 学童保育の充実
 - ・利用時間や利用期間の自由度を広げる
 - ・職員体制の充実
- 子どもの居場所になれるような子ども会の設置と参加率のアップ
 - ・役員が回ってくることへの不安を取り除く
 - ・保護者の働き方に左右されない工夫
- 情報提供
 - ・保育所の一時保育などを有効利用できるよう、情報提供を行う

上記の問題や課題を解決するためにできることは？
また、よいところをさらにのばしていくためには？

自分でできること

- 役所に行く
 - ・窓口で相談する
 - ・子育ては市の大切な役割なので、おかしいことは市に訴える
- 定期的に市のホームページをチェックする
- 口コミで情報交換する
 - ・ご近所やママ友、子ども同士の情報を口コミで伝える
 - ・子育てで困っている母親に声を掛ける
 - ・自分が知っている正しい情報を伝える
- つながりを作る
 - ・友達を増やす
 - ・地域の行事に積極的に参加してつながりを作り、助け合う関係を作る
 - ・子どもにも地域の行事や子ども会に参加させて、つながりを広げる

地域としてできること

- 分かりやすい情報提供
 - ・受けられる制度を個別に知らせる
 - ・PTAや子ども会などから情報発信する
 - ・各学校等に情報提供する人を配置する
 - ・掲示板を増やして子育て情報を提供する
 - ・「子育てひろばや図書館などの公共の場で情報提供している」ことを周知する

市などに支援してほしいこと

- 身近なところから対象別に情報提供する
 - ・身近で情報を得られる場所を増やす(出張所、保育所、幼稚園、子育て支援室)
 - ・年齢に合った情報を「市→学校→各家庭への手紙」などで提供する
 - ・私立幼稚園にも情報提供する
- 人と人との信頼関係の中で情報提供する
 - ・産後1か月の「こんにちは赤ちゃん」後も、継続して支援を行う(低年齢の子育て世代への訪問)
 - ・社会的に支援が必要な世帯への行政からの個別支援
 - ・市民から市に要望ができる場(このワーキングのような場)を作る
- ホームページ(子育てのページ)を、年代別、地域別などで見やすくする

テーマ： 子育てに関する情報提供

第1班

現在八尾市の状況ってどんなの？また、どんな課題がある？

<現状>

<課題>

- 市政だより/ホームページ
- 子ども会
 - ・子ども会の中で情報を聞く
 - ・子ども会の役員をすると地域のことが分かってよい
- まちづくり協議会
- 子育て支援
 - ・月1回、コミュニティセンターで開催される「はとぼっぼ」に参加して情報を得る
 - ・八尾ファミリーサポートセンターで、子育て支援の援助会員になっているため、情報が入ってくる
- 友人
 - ・近隣の友人から子育ての情報を得る
- 学童保育

- 近所づきあいが希薄
 - ・近所づきあいをしない人がいる
 - ・隣の人のことも知らない人がいる
 - ・つながりが薄いため、昔の情報が分からない
- 地域や学校とのつながりが希薄
 - ・地域や学校、子ども会の行事に参加する人が少ない
 - ・地域の子どもの詳しい情報が分からない
- 八尾市は他市に比べて遅れている
- 保護者に対するフォローや教育が必要
- 子育て支援情報を近くで全部入手したい
- 学童保育に子どもが行きたがらない



上記の問題や課題を解決するためにできることは？
また、よいところをさらにのばしていくためには？

自分でできること

地域としてできること

- 声掛け
 - ・近所づきあいをしていない人に積極的に声を掛ける
 - ・「おはよう」、「いってらっしゃい」、「お帰り」などのあいさつから始める
- 友人とのつながり
 - ・犬友達をきっかけに付き合いを広げる
- PTA、愛護のつながり

- 高齢者との交流による知恵の伝達
 - ・老人ホームや高齢者とのふれあいの場づくり
 - ・幼稚園、保育所、小学校などと高齢者との交流
 - ・独居のひととの月1回の食事会に、年3回小学3年生が参加する
- 地域行事の活発化
 - ・自治会で子ども向けの楽しい行事を開催する
 - ・子ども会への加入
 - ・災害に関する訓練（炊き出し）や講習会
 - ・青バト見守り隊の実施
- 情報提供
 - ・学校だよりを地域の民生委員に回す

市などに支援してほしいこと

- 学習の場の提供
 - ・子ども同士が教え合えるような学習室の場の提供（市職員の見守りのもと）
 - ・夏休みに、学生ボランティアによる宿題をみる会の開催
- 学童保育の中身の充実
 - ・子どもが行きたくなるような中身
- 回覧板の充実
 - ・回覧板を見やすく、分かりやすく、魅力的にする
- ふれあいの場の提供
 - ・市主催の紙飛行機大会の開催

テーマ：子どもとともに親も育つ「子育て力」の強化

第2班

現在八尾市の状況ってどんなの？また、どんな課題がある？

<現状>

<課題>

- 子どもとの関わりが少ない
 - ・仕事をしていると、子どもと関わる時間が少ない
 - ・子どもは、自分でスマホなどで様々な情報を調べる
- 子ども会
 - ・地域によって、充実しているところと、こども会に入らない人が多いところがある
- おじいちゃん、おばあちゃん世代との関わりが少ない
 - ・おじいちゃん、おばあちゃん世代が子育て世代に意見を言いにくい
 - ・料理に関して親に聞くのではなく、ネットで調べている
- 親の気持ちは子供にも伝わる
- 顔見知りを作っておくと、気分的に楽
 - ・地域子育て支援センター「元気っくらぶ」、「はとぼっぼ」に顔見知りを作ることでイライラの解消になる
- 昔と今とでは、子育ての仕方が違う
 - ・働いていて帰ってくる時間が遅い親もいる

- 子ども会の充実
 - ・少ないところは合同にする
- 「元気っくらぶ」、「はとぼっぼ」の活用
- おじいちゃん、おばあちゃん世代との関わり
 - ・おじいちゃん、おばあちゃんとの同居など
- 学童保育の充実



上記の問題や課題を解決するためにできることは？
また、よいところをさらにのばしていくためには？

自分でできること

地域としてできること

- 地域の場に出かける
 - ・子ども会に参加する
 - ・ラジオ体操に参加する
- 親世代と協力する
 - ・おじいちゃん、おばあちゃん世代も子どもを預かりたいと思っているため、若い人は頼ってよい
 - ・車での送迎をする

- 地域のひととの交流の場をつくる
 - ・老人会と子ども会の交流やイベントで顔見知りになる
- あいさつをする
 - ・近隣同士で積極的にあいさつをする

市などに支援してほしいこと

- 子育て中の人が集まってホッとできるような場の設定

テーマ：子どもの成長に応じた
切れ目のない支援を行うには？

第3班

現在八尾市の状況ってどんなの？また、どんな課題がある？

<現状>

- 幼稚園から小学校にかけて
 - ・保育所に入れなかった人は、大変孤独を感じている
 - ・子どもが小さいときは、市から情報提供があるが、幼稚園から小学校に入学するときに、つながりが切れて情報がなくなる
- 小学校から中学校にかけて
 - ・中学生と関わりをもちたいが、方法が分からない
 - ・中学生になると、怖くて注意できない
 - ・悪いことをしている子どもをしかる大人が少ない
- 地域とのつながり
 - ・子ども会や町会への加入が減少したことで、地域と子どものつながりが弱くなっている
 - ・親は情報をインターネットで調べるため、地域の集まりに足を運ばない
 - ・子育てに関する地域の支え合いがない
 - ・父親同士の集まりを立ち上げて仕事後に、夜間パトロールをしている
 - ・子ども会に入っていた子どもは、大きくなってあひさつしてくれる

<課題>

- 地域のつながりによる子育て支援
 - ・小学生の登下校時のパトロール（特に、朝の主要信号場所）
- 父親パワーの活用
 - ・「できることはやりたい」と思っている父親の思いの具現化
- 公民館などを利用した、子どもを連れていける子どもに関する話し合いの場
- 自分の子ども以外の子どもにも注意できる環境づくり

上記の問題や課題を解決するためにできることは？
また、よいところをさらにのばしていくためには？

自分でできること

- 対症療法ではなく、潜在的にある協力意識を引き出す
- 自分でできることを、自分から始める
 - ・中学生や小さい子どもなどに積極的に声掛けする（「おはよう」、「おかえり」、「こんにちは」）
 - ・子育て経験者として、子育て中の母親と関わるイベントに参加する

地域としてできること

- 各団体間の連携
 - ・各団体のネットワークにより、一人一人の子どものことをもっと知る
 - ・育成会と指導員による防犯活動
 - ・子どもに犯罪の環境を作らないよう、指導員、民生委員、PTAが連携する
 - ・親子の意見を、保育園と各PTAで連絡、協力する
- 子育てに関する話し合いの場
 - ・子育て経験者との話し合いの場の設定
 - ・子ども連れでも行きやすい環境づくり
- 子ども同士が集まれる場
 - ・自治会や町会で、子ども中心の集いの場を増やす
 - ・園児と小中学生が一堂に集まれる機会を多くもつ

市などに支援してほしいこと

- 地域でのつながりや支え合いを強めるためのサポート役
 - ・サロンやひろばなどの交流の場所を増やす（各校区に1～2か所）
 - ・放課後に子どもが集まり、年長の子どもの面倒を見たり、宿題をする場として、コミュニティセンターなどを活用する（指導者は、地域の学校の先生のリタイヤや市の職員など）
 - ・まちづくり協議会などの自由度の高い助成を行う
- 地域に向向いての情報提供
 - ・市役所から月1回中学校に向向いて、様々な身近な情報を伝えてほしい（「10日は話を聞く日」など）

テーマ：子どもの居場所

第4班

現在八尾市の状況ってどんなの？また、どんな課題がある？

<現状>

- 公園での遊びが限定されている
 - ・思いっきり体を動かして楽しむ機会や場所が減っている
 - ・ボール遊びができる場所がない
 - ・公園利用の規制
 - ・公園の遊具が減少して、滑り台くらいしかない
 - ・外で遊んでいる子どももゲームで遊んでいる
- 安全な遊び場が少ない
 - ・安全確保できる遊び場が減っている
 - ・小学校の前の信号が危なく遊びに行かせるのが怖いので、ほとんど家の前で遊んでいる
- 少子化で、同世代の子どもと関わる機会が減っている
 - ・コミュニケーション能力の低下（自分の思いを相手に伝える）が見られる
- 自尊感情が乏しい子どもが増えている（自信がない、やる気が出ない）
- 見知らぬ子どもに気軽に声掛けできない
- 保育の場が不足している
 - ・保育所に入れない幼児の話をよく聞きてほしい
 - ・学童保育の人数を調整してほしい

<課題>

- 安全で思い切り遊べる場
 - ・学校の運動場の開放など
- 学童保育の充実
- 子どもに自信をもたせる環境づくり

上記の問題や課題を解決するためにできることは？
また、よいところをさらにのばしていくためには？

自分でできること

- 地域の子どもに目をかける
- 公園のトイレ掃除をする
- 子ども向けレシビ（おにぎり、お味噌汁、ご飯の炊き方など）を作って配布する

地域としてできること

- 声掛け
 - ・地域のそれぞれで、近所の顔見知りの子どもに声掛けて見守る
 - ・あひさつ運動を行って、地域の人を知る

市などに支援してほしいこと

- 遊び場、居場所の確保
 - ・プレイロット広場や、放課後の学校の校庭の開放
 - ・ボール遊びができる公園がほしい
 - ・放課後に、市で子ども料理教室を開催する
- 公園の環境整備
 - ・公園のトイレに、重層、クエン酸、スポンジを置き、掃除方法を書いた紙を貼る
- 市の対応強化
 - ・幼保一体化では、子どもが過ごしやすい施設環境を考慮してほしい。八尾市全体や地域への説明を徹底してほしい
 - ・市の職員も、自身や子どもと過ごすために、定時に帰ってほしい
 - ・市職員の数や詳しい予算、決算について教えてほしい

テーマ：子どもの成長に応じた
切れ目のない支援を行うには？

第1班

現在八尾市の状況ってどんなの？また、どんな課題がある？

<現状>

<課題>

- 保育の場の不足
 - ・待機児童がある
 - ・保育所の待機児童で、兄弟が別々の保育所に入らざるを得ない
- 少子化問題
- 産院不足
 - ・分娩のできる産院が少ない

- 待機児童の保育の充実
- 産院不足
- 妊婦健診の援助、補助
- 地元離れの解消



上記の問題や課題を解決するためにできることは？
また、よいところをさらにのばしていくためには？

自分でできること

- 地元での子育て
 - ・自分の子どもを地元に住まわせて、子育てさせる
- 通学時の見守り

地域としてできること

- 他地域にはない、つどいの広場「シャボン玉」～子ども会～青年団といった地域のつながりをもっと活用する
 - ・子ども会の存続
 - ・子育てひろば／育児サークル、「シャボン玉」への幼稚園児の参加
 - ・青年団の活性化
- 若者を地元に住めるようにする

市などに支援してほしいこと

- 0歳から18歳までの子どもの成長にかかる費用の援助
 - ・予防注射の補助
 - ・18歳までの医療費の無料化
 - ・高校授業料の無償化
- 人口増加につながる地域支援
 - ・教育特区として、小中一貫校を特徴ある学校にして、他の校区から見ても魅力あるものにする
 - ・市営住宅の充実
 - ・調整区域として他地域から転入できない環境を改善して、住宅が建てられるようにする
 - ・校区の変更

テーマ： 子育てに関する情報提供

第2班

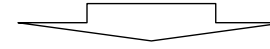
現在八尾市の状況ってどんなの？また、どんな課題がある？

<現状>

<課題>

- 情報が分からない
 - ・子育てをしているときは、情報の入手方法が分からない
 - ・中学生になると情報が入りにくい
 - ・子どもが少ないと、情報を得たり、人と出会うことが少ない
 - ・コミュニティセンターには、大人向けの講座はあるが、子育てに関するものがまったくない
- 情報があっても活用できていない
 - ・市政だよりが行き届かない
 - ・子どもが小さいうちは、余裕がなく情報を活用できないため、健診時などで声掛けしてもらったほうがよい
 - ・興味のあるなしで温度差がある（興味がある人は情報を見るが、興味ない人は見ない）
- 安全面の情報が入りにくい
 - ・安全に遊べる場所が少ない
 - ・公園で遊んでいる子どもが少ない
- つどいの広場「シャボン玉」
 - ・「こんにちは赤ちゃん」で「シャボン玉」のことを知らせている

- 情報の周知
 - ・子育て中の人も利用できる講座をコミュニティセンターで開催する
 - ・健診時を利用した情報提供
- 統合すると友達が遠くなる
 - ・まったく知らない家に遊びに行くことになる
- つどいの広場「シャボン玉」の存続



上記の問題や課題を解決するためにできることは？
また、よいところをさらにのばしていくためには？

自分でできること

- 学校に関わる
 - ・学校の役をすると先生や周囲から様々な話を聞くことができる
- 地域に関わる
 - ・地域の活動に参加する
 - ・近所の人と積極的につながりをもつようにする
- ネットの利用
 - ・ネットによる情報収集

地域としてできること

- 掲示板による情報提供
- 無線放送
 - ・無線放送による犯罪、変質者、事件、事故の未然防止

市などに支援してほしいこと

- 情報収集のための場所の提供
 - ・山手の人が多く車利用者が多いため、駐車場完備の場所を提供してほしい
- 講座の開催
 - ・コミュニティセンターでの子ども向けの講座の開催

テーマ： 子どもの居場所

第3班

現在八尾市の状況ってどんなの？また、どんな課題がある？

<現状>

- 家庭内
 - ・子どもの気持ちとして子ども部屋があるほうがよい
 - ・IT 友人グループ
- 公園
 - ・ボール遊びなど、のびのびできる場所がない
 - ・公園で遊ばせたいが、トイレや水道がないので困る
- 居場所がない
 - ・夏休みなどの長期休暇中に、子どもを預ける場所がない
- 子ども会／青年団
 - ・子ども会の存続が難しい
 - ・子ども会の活動が分からない
 - ・青年団への入会が少ない
- 時間がない
 - ・学区が広いので通学時間が長い
 - ・塾や習い事で忙しい
 - ・塾から遅い時間に帰ってくる子どもが多い
- 子育て世代の情報が、他の世代に伝わっていない

<課題>

- 放課後に屋外で遊ぶ時の安全面
 - ・道路や公園の安全面
 - ・ボランティアなど、地域を見守る大人の目が必要
- 長期休暇中の放課後児童クラブや延長保育の充実
- 小中一貫校になってからの小学校の跡地の活用
- 子ども会の存続
- 子ども会に属さない子どもへの対応
- 自然に育てる

上記の問題や課題を解決するためにできることは？ また、よいところをさらにのばしていくためには？

自分でできること

- 見守り／声掛け
 - ・登下校時に、通学路で子どもに声掛けする
 - ・地域の子もたちに声を掛ける
 - ・地域の人や子どもと親しくする

地域としてできること

- 子ども会の充実による子ども同士の交流
 - ・各地区の子ども会を合同にする
 - ・新しく転居してきた人に子ども会を積極的に勧誘する
- 青年団の活性化
 - ・子どもから大人になる場として、16歳からの青年団に入会する
- 子どもと大人が接する場を作って、お互いの顔を知る
 - ・三世代の家庭も多いため、おじいちゃん、おばあちゃんも巻き込んで、放課後や下校時の見守り／声掛けを行う
 - ・見回り時に制服を着用することで、見守られている安心感をもってもらう

市などに支援してほしいこと

- 公園の整備
 - ・公園にトイレを設置する
- 子どもが増えるような支援
- 小中一貫校になったときに跡地を子ども広場として整備する
 - ・校区が広がるため、スクールバスを運行する(朝夕2本ずつ)
- 長期休暇時のみの預かり、放課後の預かりの充実

テーマ：子どもとともに親も育つ「子育て力」の強化

第1班

現在八尾市の状況ってどんなの？また、どんな課題がある？

<現状>

<課題>

- 親に不安がある
 - ・子どもの接し方が分からない。虐待の不安感がある
 - ・プロセスを学ばずに成長した親世代が多い
 - ・親自身も親になっていない(愛情を受けずに育てきた)
 - ・情報があり過ぎて不安である
 - ・子どものおけいこ事で、子どもと離れている親が多い
 - ・マンションに同年代の子が多いが、一歩外に出ると新しいことが多い
- 地域との関わりが少ない
 - ・地域の人との関わりが下手で臆病になっている
 - ・新興住宅地が増えて回りの関わりが減った
 - ・近所にどんな家族が住んでいるか知らない
 - ・LINE やメールが増えていく割に孤独な親が多い
 - ・地域に子どもが少なく、行事に人が集まらない
- 子育て環境が不足している(施設面)
 - ・学童の時間が短い
 - ・働きたくても子どもを預ける場所がない(保育所に入れない)
 - ・外で思い切り遊べる場所がない
 - ・休日に小中学校に遊びに行けない
 - ・消極的な親は子育て支援があっても利用しない

- 親の安定(親が安定すると子どもも育つ)
 - ・子どもが笑顔していると安心する
 - ・親が自分の子育てに自信をもてるもの
- 地域とのつながり
 - ・子育て中の親が地域とつながる方法
 - ・ひろばなどに参加しない親が地域とつながる方法
- 子育てに関する情報交換
 - ・若い母親の考えや思いを聞く機会
 - ・子育てについて先生や保育士が話し合いする機会
- 新制度へのスムーズな移行
 - ・新制度での教育体制
 - ・幼保などの就学前の連携で、親子の育ちを大きな流れの中で見守ることができるか
 - ・施設、教育内容、教職員のスムーズな移行ができるか

上記の問題や課題を解決するためにできることは？
また、よいところをさらにのばしていくためには？

自分でできること

地域としてできること

- 声掛け
 - ・グループの中で人づきあいを大切にする
 - ・声を掛けてあげる
- 情報提供
 - ・子育て支援の活動者が、参加者以外にも情報提供する
 - ・ソフトに関われる場

- 近所づきあいを大切にする
- 地域行事を活発にする
 - ・子ども会の活用(市の協力も得ながら)
 - ・地域と親が関われる場をつくる
 - ・防災訓練、地域の清掃
 - ・様々な世代の話が聞ける場

市などに支援してほしいこと

- 間に入ってくれる行政
 - ・地域と教職員との密接な関わり
 - ・幼稚園、保育所の職員やPTAが、保護者を支える環境づくり
 - ・幼稚園や保育所に来ていない保護者とのつながりづくり
 - ・つながりをもちやすい未就園児とのつながりづくり
 - ・大きな行事でなく、密に関われる場

テーマ：子どもの成長に応じた
切れ目のない支援を行うには？

第2班

現在八尾市の状況ってどんなの？また、どんな課題がある？

<現状>

<課題>

- 安心して産めない
 - ・市内で出産できる産院が少ないため、他市で出産した
 - ・少子化で閉院している
 - ・出産前のパパママ学級が1回しかない
- 乳幼児の居場所に不安がある
 - ・保育所に入れなくて困った
 - ・年齢が低いほど保育所に入りにくい
 - ・認定こども園になって待機児童が解消されるかどうか不安
 - ・幼保一元化でどう変わるのか不安
 - ・保育時間が延びた場合、金銭的な負担が大きくなるか不安
- 学童保育が不十分
 - ・幼稚園までは預かり保育で就労できたのに、小学校になるとパートでは就労時間が足りず、学童保育に入れない
 - ・学童保育に入れないので、特に子どもの長期休暇の時に困る
 - ・学童保育の終了時間が早い(保育所は19時まで預けられるが、学童は17時までしか預けられない)
 - ・今は小学6年まで入れるが、以前は小学3年までだった
- 地域の子育て支援情報が、地域で十分に共有されていない
 - ・子育て支援を地域任せではなく、もっと行政に積極的に関わってほしい
- 子育て中にリフレッシュできる場所が少ない
- 保育所、幼稚園、小中高の連携が深められない

- 安心して産める環境づくり
- 待機児の解消
 - ・保育所や学童保育の充実
 - ・解消策は民間に任せられるのか、公立を増やすのか
- 子育て支援策の充実
 - ・医療費助成など
- 保幼から小中高校までの連携づくり
 - ・小中で勉強しやすい環境づくりなど
- 子育て支援に関する行政の積極的な情報提供

上記の問題や課題を解決するためにできることは？
また、よいところをさらにのばしていくためには？

自分でできること

地域としてできること

- つながれる場所に積極的に参加する
 - ・町会の行事を通じて若い人と関わる
 - ・市民スポーツ祭に参加する
 - ・様々な行事に参加する
 - ・保育所の保護者会に積極的に参加して、「子どもを皆で育てる」意識をもつ

- 地域行事の活発化
 - ・町会、子ども会を活発にする
- 地域のマンパワーを活用
 - ・高齢者の力を生かす
 - ・会社から帰宅後の父親の力をネットワークにして生かす
 - ・時間的にゆとりのある人に子どもとつながってもらう(学校前の声掛け運動など)

市などに支援してほしいこと

- 異年齢の子どもが自由に集まれ、安心して遊べる場所づくり
 - ・土日の校庭開放による遊びの企画
- 公立保育所の充実
- 子どもの学習の場の充実
- 地域での次世代へのつながりづくり

テーマ： 子育てに関する情報提供

第3班

現在八尾市の状況ってどんなの？また、どんな課題がある？

<現状>

- 必要な情報が行き渡っていない
 - ・すべての家庭に冊子が行き渡っていない
 - ・つどいの広場、CAPが知られていない
 - ・本当に必要な人が、情報にアクセスできない
 - ・ネズミ講的に情報拡散になっている
 - ・就労しているので、休日に子育て相談ができない
 - ・外国籍の人は自分から情報を求めるのが大変
 - ・校区を超えると情報がない
 - ・子育てマップは写真付きで役立っているが、必要なのに見えていない人もある
 - ・子育てマップは未就学児が対象だが、小学校低学年向けもあったほうがよい
- 情報の窓口がよく分からない
 - ・子育てについてどこに相談すればよいか分からない
 - ・保健師、スマイルサポーターの役割が分からない
- 情報の窓口が細分化し過ぎ
 - ・年齢によって窓口が分かれ過ぎている
- 小学校からのお知らせで同じようなものが多く届くことがある

<課題>

- 休日、時間外の子育て相談窓口の充実
- 相談窓口の一元化
 - ・全エリアに子育て支援センターの設置など
- 子育て情報の周知
 - ・子育てマップを駅に設置



上記の問題や課題を解決するためにできることは？
また、よいところをさらにのばしていくためには？

自分でできること

- 自分から情報を求める努力をする
 - ・自分の身の周りのことを気にする意識をもつ
 - ・近所づきあいをよくする
 - ・父親も子育てに参加する

地域としてできること

- 情報の一本化
 - ・学校からの情報提供にメールやホームページを活用(ペーパーレス化により情報提供の重複防止)
- タイムリーな情報提供
 - ・その年のニーズに合ったタイムリーな情報提供
 - ・公園内にご意見箱の設置(QRコードをつけておく)

市などに支援してほしいこと

- 相談窓口の一本化
 - ・未就学から大学まで、子どもに関する情報が一括ですべて分かる窓口の設置
- 相談窓口の充実
 - ・休日も含めて早朝から夜遅くまで対応できる市役所の開庁時間の工夫
 - ・緊張性の高い相談には24時間対応できる窓口の設置
 - ・親身になって相談に乗ってくれる専門家の配置

テーマ： 子どもの居場所

第4班

現在八尾市の状況ってどんなの？また、どんな課題がある？

<現状>

- 安心して集まれる居場所が少ない
 - ・子どもや保護者が集まれる場所が少ない
 - ・安心、安全に利用できる場所が少ない
 - ・ボール遊びができる公園がない
 - ・中高生が集まれる場所が少ない
 - ・公園のトイレが汚れているので遊ばせにくい
 - ・公園にたばこやガラスの破片、動物のふんが多い
 - ・つどいの広場の耐震性が心配
 - ・ニコニコ広場が月曜だけなのが残念
 - ・ウィングで開催しているイベントの回数が少ない
- 情報が少ない
 - ・中高生が地区の集会所の利用の仕方を知らない
 - ・子育てに必要な施設の情報が少ない
 - ・防災センターの情報が入ってこない

<課題>

- 安心、安全な場所づくり
 - ・公園の整備
 - ・つどいの広場の開催日の充実
 - ・つどいの広場の耐震性の確保
 - ・ウィングなどのイベントの増加
- 有効な情報提供



上記の問題や課題を解決するためにできることは？
また、よいところをさらにのばしていくためには？

自分でできること

- 声掛け、見守り
 - ・近所の子どもに積極的に声掛けをする

地域としてできること

- 地域毎の情報伝達
 - ・子どもの悩みや意見を聞く場所の設置
 - ・子育て中の人との交流づくりによる相談場所の確保
- 中高生が集える場所
 - ・図書館以外に学習できる場所
 - ・地区の集会所の活用方法の周知

市などに支援してほしいこと

- 屋内外の安心、安全な施設の確保
 - ・学童保育の充実
 - ・保育所を増やして待機児童の解消
 - ・一時保育の内容のバラつき(日数など)の解消
 - ・公園の環境整備(清潔なトイレ、休憩スペースの設置、清掃など)
 - ・施設等の耐震性の確保
 - ・学校へのクーラーの設置
- 子育てしやすい町づくり
 - ・産科、小児科、保健センターの充実
 - ・ベビーカーで移動しやすい環境整備